

『人間のお医者さん』になるまでと、 なってから

留萌市立病院 循環器内科

林 望美

名寄市立総合病院の樋口隼太郎先生より執筆のバトンを受け取りました。留萌市立病院循環器内科の林と申します。樋口先生とは『はやし』→『ひぐち』で大学の学生番号が隣同士であり、多くの実習を共に乗り越えてきました。

学生実習にはたくさんの思い出があるのですが、COVID-19の影響で実習が難しい状況であると耳にします。医学科の実習は顕微鏡での観察や実験、解剖といったいわゆる『基礎』の分野と、実際の診療現場で患者さんから勉強させていただく『臨床』の分野に大別されるかと思えます。

私の出身校である旭川医科大学では、2年次に寄生虫学実習という実習がありました。顕微鏡を覗いて標本をスケッチすることはもちろんですが、朝市直送の新鮮な魚を自分で捌いて寄生虫を探したり、タライに入ったサナダムシを一匹丸々観察したりと、未知との遭遇を感じていました。楽しいことばかりだといいののですが、成績評価は避けて通れません。日々のスケッチに加え、実習の締めくくりには試験が待っていました。実習室に顕微鏡と肉眼標本が計50個並んでおり、出席番号順に並んで標本を見てその名称を解答用紙に記入します。制限時間は1問1分で、1分ごとにブザーが鳴り、次の標本に移っていきます。しんと静まり返った実習室でブザーが鳴るたびに学生が一斉に隣の標本にスライドしていくという、なんともシュールな光景なのですが、試験にもかかわらず私は一人で大興奮していました。実は私は、般若顔のハスキー犬が登場する、H大学獣医学部を舞台とした某有名漫画に憧れ、小学校の卒業文集（テーマ：将来の夢）に「獣医になりたい」としたためていました。この漫画の原作第14話に組織学実習試験のシーンがあるのですが、これがまさしく自分が受けている寄生虫学実習試験と同じ形式・シチュエーションだったのです。『人間のお医者さん』になるべく臨んだ試験で、図らずも小学生当時のワクワクがよみがえりました。

高学年での臨床実習ではたくさんの患者さんや先生方との出会いがありました。自分の母親と年齢が近い患者さんとは、病気や治療のことはもちろんですが、趣味のこと、仕事のこと、家族のことなど、問診というよりもおしゃべりをして一緒に時間を過ごさせていただきました。実習最終日にご挨拶に伺



北海道岩内町出身。旭川医科大学で初期研修。腎・循環器領域の専門医を目指して修行中です。趣味は心電図収集、動画サイトでの動物園や水族館の動画鑑賞です。コロナ禍が落ち着いた晩には、掛川花鳥園のハシビロコウのふたばちゃんに会いに行きたいと思えます。写真は2019年末に行われた、大学吹奏楽部のOB・OG演奏会での一枚です。

うと「明日からさみしくなるけれど、いいお医者さんになってくださいね」とのお言葉をいただきました。嬉しい出会いもあれば、悲しい出会いもありました。救急科の実習中に70代の女性がCPAで搬送されてきました。蘇生に反応なく残念ながらお看取りとなり、Aiでクモ膜下出血が判明しました。ご家族によると、検診での高血圧の指摘はありましたが、医療機関は受診していなかったとのことでした。朝の「いってきます」の言葉が最後のやりとりになってしまいました。ご遺体を前にしたご家族の表情が忘れられません。

専攻医1年目の本年度は留萌市立病院にて循環器内科医として勤務させていただいています。留萌振興局は天塩町、遠別町、初山別村、羽幌町、苫前町、小平町、留萌市、増毛町が日本海沿い（オロロンライン沿い）に南北に連なっており、羽幌町には天売島と焼尻島の2つの離島も属しています。ウニやイクラ、エビなどの海産物に恵まれる一方、港町ならではの塩分摂取過多による高血圧という問題を抱えています。今年、救急外来で出会った患者さんには高血圧を基礎疾患として、心大血管疾患や脳卒中により致命的な経過を辿った方もおります。外来では高血圧や脂質異常症、糖尿病、肥満といった生活習慣病の患者さんが多く、減塩・禁煙・減量・服薬順守などの患者指導に悩むことも少なくありません。それでも、「いってきます」と言って出かけた人が家に帰って「ただいま」と言えるように、大切な人と他愛のないおしゃべりができるように、平凡な日常が続くように、と考えながら診療を続けていこうと思えます。

今回は、大学時代からの友人で進級試験から医師国家試験までさまざまな試験を共に乗り越えてきた栗澤未央 ジューン先生にバトンを渡したいと思えます。最後までお読みいただきありがとうございます。